福祉用具貸与事業者とケアマネジャーをつなぐニュースレター
GreenCare NEWS
Vol.411
2026年
9月24日発行

30分で
できる！

「作って終わり」になってませんか？
BCP「机上シミュレーション訓練」と実効性チェック

BCP（業務継続計画）の策定完了から時間が経ち、「計画書が棚に眠ったまま」になっていませんか？災害時や緊急時に本当に計画通り動けるかを確認する鍵は、大がかりな避難訓練ではなく、短時間で対応手順を確かめる「机上シミュレーション訓練」にあります。

ケアマネジャー様にとっては自所の防災体制だけでなく、利用者の「停電リスク（電動ベッド・吸引器等）」や「災害時一人歩き」を想定したモニタリングとケアプランへの反映や、福祉用具専門相談員様にとっては停電時に電動ベッドを手動で下げる方法、車いすの非常時対応など、日常から利用者に伝える「用具の安全対策」が重要になります。

事業所内研修（年1回以上必須）の一環として、準備不要・30分で実施できる具体的な手順とチェックリストをまとめました。

準備不要！「30分机上訓練」

スタッフ3～5名のグループを作り、以下のステップで進めます。



スタッフ3～5名の訓練チームを作り、地震発生からの初動対応を机上でシミュレーションします。

STEP 1（5分）シナリオの提示



設定例：
「平日の14:00、震度6強の地震が発生。地域一帯が停電・断水し、固定電話も不通。担当のBCP担当スタッフの半数は外出中。」

STEP 2（15分）初動対応の意見交換



設問①【安否確認】：
スタッフ自身と担当利用者の安否をどう確認（スマホ通信障害時の代替手段は？）

設問②【優先順位】：
支援が必要な利用者の「優先度（トリアージ）」を誰がどう判断するか？

設問③【情報共有】：
関係する介護サービス事業者・自治体とどう連絡を取るか？

STEP 3（10分）課題の抽出とまとめ



「緊急連絡先リストが古い」「非常用電源の使い方がわからない」など、議論で浮き彫りになった課題をメモに残す。

BCP実効性チェックリスト

① 連絡網の有効性



- チェック項目：連絡網の有効性
- 評価ポイント：・停電・通信障害時の代替手段はあるか？
- 改善のアクション案：災害時優先電話の契約確認、SNS等のバックアップ連絡手段の導入

② 優先度の明確化



- チェック項目：優先度の明確化
- 評価ポイント：・利用者の状態、人工呼吸器や介護ベッド等の使用等に応じた優先順位づけははあるか？
- 改善のアクション案：・患者の状態に応じたトリアージ基準の策定
  ・医療用電源の使用優先順位表の作成

③ 非常用電源の把握



- チェック項目：非常用電源の把握
- 評価ポイント：・ポータブル電源や車からの給電手順を把握しているか？
- 改善のアクション案：・機器の操作マニュアル確認
  ・実機の動作確認



④ 情報共有の体制



- チェック項目：情報共有の体制
- 評価ポイント：担当者不在時に他のスタッフで代行できるか？
- 改善のアクション案：・データクラウド化の促進
  ・複数名での権限共有の設定
  ・代理マニュアルの整備

ケアマネジャー・福祉用具専門相談員はどうすればよい？

［ケアマネジャー］



自所の防災体制だけで利用者の「停電リスク（電動吸引器等）」や「災害時一人歩き」を想定してモニタリングとケアプランへの反映を進めましょう。

［福祉用具専門相談員］



停電時に介護ベッドを手動で下げる方法や、車いすの非常時対応など、常日頃利用者に説明する「用具の安全対策」が重要に

実践！60分でできるBCP机上訓練シナリオ例



株式会社日本ケアサプライ
営業企画部
理学療法士
唐沢　忠尚

BCP(業務継続計画)は作成するだけでは機能しません。定期的な「机上訓練」を通じ、想定シナリオに沿って「誰が・いつ・どう判断するか」をスタッフ同士で話し合い疑似体験することで、計画の不備(バグ)を発見し対応力を高めていきましょう。
今回は、「ただの風邪かも」という正常性バイアスの罠を断ち切り、「疑い1名」の時点で即座にBCPを発動し、初期対応を確立する訓練を紹介します。

災害・被害シナリオ(状況設定)

発生日時	月曜日 午前 08:30（週明け始業時・最も感染が拡散しやすい時間帯）
被害状況	事業所内で「ただの風邪かもしれない発熱者（疑い）1名」が発覚。 【在宅】訪問前チェックで職員1名に発熱。本日の訪問シフトが急遽崩壊の危機。 【施設】デイ利用者または施設入所者1名に微熱症状。他利用者との接触拡大の恐れ。
対象区分	訪問・通所・施設（入所）の全介護サービス事業所共通



机上訓練の進め方(60分プログラム)

【STEP 1】想定(10分)
「複数名出てから対応すればいい」という正常性バイアスの罠を認識。

・疑い1名発覚時、報告ラインの伝達スピードと隔離・検査手配の初期動作を確認する。
・防護具(PPE)の準備状況および勤務制限(出勤停止)の判断ルールを整理する。

【STEP 2】初動対応(20分)
疑い1名の時点で即座にBCPを発動・初期対応を開始。

・【設問:初期発動】「確診」を待たずに「疑い」の段階でBCP対策本部を立ち上げる基準が明確か？
・【設問:報告・伝達】職員間・保健所・行政への第一報連絡手順に滞りはないか？

【STEP 3】業務継続(20分)
防護具(PPE)在庫10%下での優先配分と出勤調整トリアージを決定。

・【設問:トリアージ】濃厚接触者特定に伴い人員が削られた際、優先的に継続するコア業務をどう判断するか？

【STEP 4】バグ抽出(10分)
初動発動の遅れを生む報告ラインや正常性バイアスの原因を特定。

・【設問:バグ抽出】「検査結果待ち」の間に感染が広がる構造的バグを洗い出す。
・【設問:修正】疑い段階での自動発動フローおよび代行シフト作成ルールを補正する。

BCP実効性チェックリスト(訓練成果の確認)

チェック項目	評価ポイント・確認内容	判定
疑い段階の発動ルール	確定診断を待たずに「疑い 1 名」の段階で BCP 初期対応を発動する判断基準があるか？	□ ○ □ △ □ ×
初期隔離・報告フロー	発熱者発生時の初期隔離手順およびライン上の報告フローが周知徹底されているか？	□ ○ □ △ □ ×

法定研修
安心の学びをリーズナブルにご提供
支援ツール
スキルアップセミナー
GCFOバックナンバー
いつでも どこでも なんどでも
介護サービスの質向上と効率化をお手伝いします！
GREEN CARE FORUM
グリーンケア フォーラム
プレミアムプラン

私たちグリーンケア取扱店に、お気軽にお問い合わせください。
kinusen
きぬせん福祉用具研究会
千葉県船橋市海神四丁目9－18
連絡先：047－433－1012　FAX：047－433－1(
mail　：info@kinusen.net　URL：https://kinusen.